

第1回北方領土遺産調査検討会議 次第

日 時：平成27年8月5日（水）

13時00分～14時30分

場 所：道立北方四島交流センター（ニ・ホ・ロ）

1階視聴覚室

1 主催者あいさつ

北海道根室振興局長 田中 宏之

2 委員自己紹介

3 事務局自己紹介

4 議題

（1）会長・副会長の選出

（2）事業計画について

5 その他

北方領土遺産発掘・継承事業の概要

(北海道根室振興局北方領土対策課)

目 的

北方領土問題が発生して70年目を迎えることから、北方領土問題に対する理解の促進を図り、さらなる返還要求運動の後継者育成を図っていくため、根室管内に残されている北方領土にゆかりのある建築物、遺構、文書図画、石碑、埋もれているエピソード等や北方四島側に残されている日本建築物等について、有形・無形の北方領土遺産と位置付けて掘り起こし、「忘れてはいけない物語」として後世に伝えることを目的として実施する。

主な事業内容 (H27)

項 目	内 容
調査検討会議 (2回)	元島民・後継者、学芸員、学識経験者、関係団体などで構成し、事業の実施内容等について検討を行う。
情報・資料の収集整理	根室管内及び北方四島側に残されている建築物等について、元島民等から情報・資料の収集を行い整理する。(写真、動画等)



ワークショップ、講演会、報告会等の開催	事業の周知を図り調査対象の掘り起こしを進めるとともに、次世代への継承方法についての意見交換を行うため、今年度調査した北方領土遺産を題材としたワークショップ等を開催する。
---------------------	--



ホームページ掲載	調査結果やワークショップの結果をホームページやブログを通じて情報発信
----------	------------------------------------

全体計画

H27	H28	H29
<ul style="list-style-type: none"> 調査検討会議 情報・資料の収集整理 住民対象のワークショップ開催 	<ul style="list-style-type: none"> 調査検討会議 情報・資料の収集整理 住民対象のワークショップ開催 遺産ツアー開催等 	<ul style="list-style-type: none"> 調査検討会議 情報・資料の収集整理 北方領土遺産報告書作成 フォーラム開催 遺産ツアー開催等

事業への参加予定者

(敬称略)

調査検討会議のメンバー (10名)	関係団体 元島民 元島民2世 学識経験者 学芸員	(公社)北方領土復帰期成同盟 (公社)千島齒舞諸島居住者連盟 旧逋信省千島回線陸揚げ庫保存会 特定非営利活動法人 北の海の動物センター 根室市歴史と自然の資料館 別海町郷土資料館 中標津町教育委員会生涯学習課 標津町教育委員会管理課 羅臼町郷土資料館 北海道博物館	会長 理事長 学芸主査 主幹 学芸員 学芸員 学芸員 学芸主幹	堀 達也 脇 紀美夫 久保 浩昭 本間 浩昭 猪熊 樹人 石渡 一人 村田 一貴 小野 哲也 天方 博章 右代 啓視
事業協力者	元島民、郷土史家、歴史愛好家、高校生等			

調査対象とする北方領土遺産リスト（案）

建築物

- | | | |
|---|-------------------------|-----|
| 1 | 旧千島電信回線（海底ケーブル）ハッタリ浜陸揚庫 | 根室市 |
| 2 | 標津一国後島海底電信基地 | 標津町 |
| 3 | 旧開拓使別海缶詰所（現別海漁協倉庫） | 別海町 |

遺構遺跡

- | | | |
|---|----------|-----|
| 4 | 野付通行屋遺跡 | 別海町 |
| 5 | 旧落石無線電信局 | 根室市 |

文書図画等

- | | | |
|---|--------------------------------|--|
| 6 | 映画「生命（いのち）の冠」（1936年制作、ロケ地・国後島） | |
| 7 | 千島及離島ソ連軍進駐状況綴 | |
| 8 | 「故郷の島 たらく 四季と生活（くらし）」 | |
| 9 | 根室管内の研究者等が所蔵する北方関係資料 | |

像・石碑等

- | | | |
|----|--|------|
| 10 | 江戸末期、北方警備に当たった会津藩の足跡
（藩士の墓、標津番屋屏風等） | 標津町 |
| 11 | 国後島から持ち出された馬頭観世音菩薩坐像 | 別海町 |
| 12 | 色丹島から持ち出された上武佐ハリストス正教会のキリスト像 | 中標津町 |

エピソード

- | | | |
|----|---|--|
| 13 | 国後島に不時着したリンドバーグ夫妻と島民の交流 | |
| 14 | 国後島・古丹消に移住し、スキーを広めた猪谷六合雄（いがや・くにお）氏
（国後島生まれのオリンピック銀メダリスト・猪谷千春氏の父） | |
| 15 | 強制引き揚げ後も北方四島に残った人々 | |

その他

- | | | |
|----|---|-------|
| 16 | 「光のメッセージ LOVE&PEACE」の取り組み | 中標津町他 |
| 17 | 国後島から登記簿を持ち出した根室地区裁判所泊出張所主任書記・浜清氏 | |
| 18 | 国後島で13年間教員を務め、高山植物の収集や遺跡調査を行った
初代羅臼村長・村田吾一氏 | 羅臼町 |
| 19 | 森繁久彌と北方領土
（映画「地の涯に生きるもの」、北方領土の歌「ちぎれ千島に雲が飛ぶ」） | 羅臼町 |
| 20 | 四島からの脱出に伴う遭難の記録 | |

四島の日本建築等

- | | | |
|----|---|--|
| 21 | 四島の日本建築、歌碑、遺構、遺物等
（択捉島・紗那郵便局跡地から見つかった「半鐘」など） | |
|----|---|--|

(参考) 項目ごとの若干の説明

1 旧千島電信回線（海底ケーブル）ハッターリ浜陸揚庫

旧逓信省が1900年（明治33）根室市ハッターリ浜と国後島ケラムイ間（38.2 km）に敷設した海底ケーブルの陸揚庫。当時の電信業務としては、漁業会社の連絡、金銭関係、出稼ぎ手配などの連絡が多かった。鉄筋コンクリート造りで築100年以上経過、土木的価値も高いと言われるが、長年放置されてきたことから状態が悪化している。戦後は個人に売却され、漁具の倉庫となっていたが、2013年（平成25）に根室市が買い取った。

2 標津一国後島海底電信基地（標津陸揚室）

標津川河口に建設された海底ケーブル陸揚庫。根室市ハッターリ浜と国後島ケラムイ間に海底ケーブルが敷設される3年前の1897年（明治30）に、標津川河口と国後島泊ノテット岬までの25kmに海底ケーブルが敷設されたが、開通後まもなく流氷により切断され、ハッターリ浜－ケラムイにルートが変更された。当時は標津村陸揚室と呼ばれていた。標津町では日本固有の領土であることを物語る重要な文化財として、1982年（昭和57）にポー川史跡自然公園に復元展示。

3 旧開拓使別海缶詰所（現別海漁協倉庫）

開拓使が1878年（明治11）に設置した缶詰所の一部で、開拓使が設置した缶詰所の中で唯一現存する貴重な遺産。「お雇い外国人」が来て、缶詰製造の指導にあたり、その後、根室地方、北方四島にも続々と缶詰工場がつくられ、主要産業に成長する礎となった。

4 野付通行屋遺跡

1799年（寛政11）に江戸幕府により、野付半島の先端に国後島へ渡るための通行屋が設置され、支配人やアイヌ8人が詰めていたほか、ロシアの南下政策に備える武士も常駐。支配人・アイヌ語通訳として活躍した加賀伝蔵は当時の様子を伝える多くの古文書（加賀家文書）を残している。

5 旧落石無線電信局

1908年（明治41）設置。ソ連軍が択捉島・留別に上陸した1945年（昭和20）8月28日、紗那郵便局から発せられたソ連侵攻の第一報を受信。1931年（昭和6）、リンドバーグ夫妻が国後島東沸湖から根室に飛来した際には、無線誘導し、無事に着陸させた。

6 映画「生命（いのち）の冠」（1936年制作、ロケ地・国後島）

国後島・古釜布の碓氷製缶工場でロケが行われ、1936年（昭和11）に公開された内田吐夢監督作品。当時の蟹漁や蟹缶詰工場の様子、エキストラで出演した女工さんたちの働きぶりなど、古釜布の雪景色とともにドキュメンタリータッチで収録されている。当時15歳の原節子も出演。往時の国後島の姿を今に伝える貴重な映像資料。

7 「千島及離島ソ連軍進駐状況綴」

北方四島へのソ連侵攻直後、根室支庁と各島役場との連絡や島から脱出してきた島民からの聞き取り等を記録した北海道の公文書

8 「故郷の島 たらく 四季と生活（くらし）」

多楽島出身の元島民・能登与市氏が描いた全46枚の絵と文章。豊かな自然に囲まれた戦前の多楽島の暮らしを味わいのある水彩画で記録したもので、多楽会青年部が紙芝居を制作。後に根室振興局がDVD化した。

9 根室管内の研究者等が所蔵する北方関係資料

考古学者や郷土史家が個別に所蔵している古地図など北方関係資料の情報収集

10 江戸末期、北方警備に当たった会津藩の足跡

江戸時代末期の1859年（安政6）に、会津藩は西別から紋別までの領地を与えられ、1868年（慶応4）まで開拓と北方警備に従事。野付半島には、蝦夷地詰を命じられ標津に赴任し、亡くなった藩士と家族の墓があるほか、藩の絵師が当時の標津の様子を描いた「標津番屋屏風」が残されている。

11 国後島から持ち出された馬頭観世音菩薩坐像

国後島・古丹消には西国三十三所観音霊場に倣って観音堂に33体の菩薩像が安置されていたが、ソ連侵攻後の1945年（昭和20）9月、国後島・泊の住職が古丹消島民の依頼を受けて持ち帰った。その後、別海の南矢臼別地区住民の手に移り、観音堂を建立。毎年6月15日に馬頭観世音祭が催され、一般公開されている。町指定文化財。古丹消には、他の観世音像が埋もれたままとなっている。

12 色丹島から持ち出された上武佐ハリストス正教会のキリスト像

上武佐教会には戦前、色丹島斜古丹にあった聖三者教会に置かれていた十字架上のハリストス（キリスト）の小像が保管されている。終戦時に、色丹島に住んでいた信者が肌身離さず持ち帰ったものと言われる。

13 国後島に不時着したリンドバーグ夫妻と島民の交流

1931年（昭和6）、北太平洋航路調査のためニューヨークを発ち、アラスカから千島列島沿いに南下し、根室を目指していたリンドバーグ夫妻の愛機シリウスが、濃霧のため、8月22日に択捉島紗那沼、23日に国後島の東沸湖に不時着。東沸では、近くにあった草小屋で島民の歓待を受け、翌朝には、差入れのビールを持って駆けつけた島民たちと、乾杯して出発。24日朝根室港に着水した。東沸湖での出来事は、アン夫人が著書「北方への旅」（世界名作選2では「日本紀行」）に、書き残している。

14 国後島・古丹消に移住し、スキーを広めた猪谷六合雄（いがや・くにお）氏

スキー場やジャンプ台の設計者、スキー用具の研究者として知られた猪谷六合雄氏は、古丹消の自然に惹かれて1929年（昭和4）に移住、6年あまり暮らした。その間、当時は珍しいガラス張りの山小屋を建設、近くにスキー場やジャンプ台を造り、島の人々にスキーを教えるなど、島の暮らしに大きな影響を与えた。1956年（昭和31）冬期五輪アルペン競技で銀メダルを獲得した猪谷千春氏は古丹消出身。千島の春に生まれたことから「千春」と命名された。

15 強制引き揚げ後も北方四島に残った人々

四島の島民は、1947年（昭和22）から48年（同23）にかけて強制的に島を追われたが、自らの意志で島に残る道を選んだ人々もいた。強制引き揚げ後5年間、水晶島に住み続け、その後サハリンに送られた油本氏一家（8人）。氏名不詳だが、択捉島では、ロシア兵と結ばれ島に残った女性がいるという。

16 「光のメッセージ LOVE&PEACE」の取り組み

四島交流事業が始まる前の1990年（平成2）から91年（平成3）にかけて、標津・中標津・別海などの青年グループが中心となって、光の点滅によるモールス信号の交換や洋上交流など、国後島在住ロシア人青年たちとの間で展開された一連の交流事業。

17 国後島から登記簿を持ち出した、根室地区裁判所泊出張所主任書記・浜清氏

1945年（昭和20）9月、ソ連軍が侵攻してきた国後島から、不動産の所有権を証明する登記簿を命がけで根室に持ち帰った。裁判所から引き揚げ許可が出ない中で、「根室に移すほかない」と自ら決断、脱出のための船を探し、紙切れ一つ残さず船積みした。根室に到着した当初、「出張所の無断閉鎖は許されず、沙汰を待て」との扱いを受けた。戦後は、法務局を退職、北見市で司法書士となり、64歳で死去。

**18 国後島で13年間教員を務め、高山植物の収集や遺跡調査を行った
初代羅臼村長・村田吾一氏**

終戦後、羅臼村初代公選村長として羅臼の発展と北方領土返還運動に貢献した村田吾一氏。昭和の初め、国後島での教員時代に、高山植物や遺跡の発掘調査に取り組んだ。国後の高山植物は羅臼町の自宅花壇に移植。氏の死後、自宅は「北方領土国後館知床草楽園」として活用されたが、現在は託児施設として活用されている。

19 森繁久彌と北方領土

知床を舞台にした戸川幸夫の「オホーツク老人」に感動し、映画「地の涯に生きるもの」を制作。ソ連侵攻により国後島を追われた主人公の老いた漁師を演じた。羅臼でのロケが終わり、町を出る朝、森繁が町民の人情に感謝を込めて歌ったのが「さらばラウスよ」、後の「知床旅情」。1977年（昭和52）は、元島民のふるさとへの思いを歌った「ちぎれ千島に雲が飛ぶ」を作詞。二男の建（たつる）氏が住む東京都世田谷区と羅臼町の交流はいまも続いている。

20 四島からの脱出に伴う遭難

1945年（昭和20年）8月から1946年（昭和21）11月までに、北方地域から脱出して根室管内に上陸した人は約4000人（外務省調べ）。ソ連侵攻後は発見されにくい荒天時、夜間に脱出するケースが多く、遭難事故も発生しているが、幾つか個別の証言はあるものの、遭難記録としてまとまった資料は見当たらない。

21 四島の日本建築、歌碑、遺構、遺物等

※択捉島紗那郵便局跡地から見つかった「半鐘」と見られる鐘について

今年7月、北海道議会との交流の一環で根室市を訪れたサハリン州議会議員らが二ホロを視察した際、今年6月に解体された択捉島の紗那郵便局の跡地から見つかった鐘の写真が提供された。戦前の「半鐘」と見られるが、詳細は不明。8月21日から択捉島を訪問するビザなし訪問団に事実関係の確認を依頼する。

北方領土遺産発掘・継承事業オープニングイベント（案）

○ソ連軍の北方領土への侵攻状況を記した公文書の公開

北海道立文書館の収蔵文書である「千島及離島ソ連軍進駐状況綴」には、ソ連軍侵攻に伴う当時の根室支庁と北方四島の役場等の緊迫したやり取りが公文書として保管されている。

この資料があまり知られていないことや、文書館に収蔵されており、地元根室で目にする機会が少ないことから、この資料の現物を展示するとともに、編纂されている文書に解説文などを添えて展示用資料を作成し、ソ連軍の択捉侵攻日である8/28に公開する。

- ・日時 平成27年8月28日（金）～9月10日（木）
- ・場所 北海道立北方四島交流センター（ニ・ホ・ロ）
1、2階 ロビー

○戦前の蟹缶詰工場を舞台とした映画の上映

昭和11年公開の「生命（いのち）の冠」（内田吐夢監督）は、舞台設定は樺太の真岡であるが、ロケは国後島古釜布の碓氷製缶詰工場で行われており、実際の缶詰製造工程や女工達が工場で働いている姿などが劇中に登場していることから、当時の缶詰工場の状況を知る上での貴重な資料となるものである。また、当時15歳の原節子も出演している。

この映画の無料上映会と合わせ、撮影当時の資料や缶詰工場、水産関係の資料の展示、解説を行う。

- ・日時 平成27年9月以降
- ・場所 北海道立北方四島交流センター（ニ・ホ・ロ）

十七時將願セリ聯合軍ノ聯軍便人員不明ナルモ
 一兩日中三八番村ヲシテ部隊へ申出アリ
 會見場所ハ役坊ナルモ更員ハ一時退場セシムラ
 ルハシ擇捷ニ於ケル決定事項一般地方民ノ生命
 財產ハ保証セラル 婦女子ノ名譽ハ重スル一般地方
 民ハ十九時ヨリ六時迄ハ寂ニ在ルヨリト八時ヨリ
 十九時迄ハ行動ノ自由ヲ許ス地方敬重感
 興カ行フ進駐ノ目的ハ武装解除ノ爲メ由ナリ

支隊長 事務官 隊長
 色丹村長

電 報

二

ミンウセイメイカ イサンハホセウセラルフシ ヨシノメイヨハオ
 モンズ ルーパ ンチホウミンハ一九シ ヨリ六シ マテ ハイキ
 ニアルベキコトハシ ヨリケ一ノヘシ イマテ ハゴウド シウノシ
 ウヲユルスチホウソケイビ ヨリケ一ノヘシ イマテ ハゴウド シウノシ
 ノモクテキハソウナイシ ヨリケ一ノヘシ イマテ ハゴウド シウノシ
 コセ、ニセ

電 報

一七シ ニキロミレレンゴウク ニソレンク ンシジ ンエンフ
 メイナルモ三イノウチニハトホノ四本ア タイヘモオシイレアリカ
 イケンバ シヨハヤクハ ナルモリエンハ一シ タイイハ ヨウセシ
 メラルベ シ「エトロフニオケルケツテイシ」 コウーハ ンチホウ

シテウ

戦前の蟹缶詰工場を舞台とした映画の上映会（関係資料）

（碓氷ミナ子氏提供）



1936年（昭和11年公開）55分

監督：内田吐夢

原作：山本有三

脚色：八木保太郎

出演：岡譲二（中央）、瀧花久子、井染四郎、原節子（右）

弁士：澤登 翠

あらすじ：

樺太の真岡を舞台に、蟹の不良が続く中、誠実に蟹缶詰を作り続けるがゆえに工場を手放すこととなる経営者、有村（岡）が描かれる。

【 ロケ風景 】





【缶詰工場の様子】

